

目標指標種について(陸域)

継続性目標指標種(陸域)

樹林地と草地の保全や回復に向けた維持管理を実施するにあたり、公園で見られる(または、見られた)動植物について、2通りの目標指標種を選定しました。

分類	種名	備考
植物	アベマキ	コナラ二次林の構成樹種。
植物	エゴノキ	コナラ林の主な構成種で、果実はヤマガラが採食する。
植物	ヤマザクラ	コナラ二次林の構成樹種で、花の蜜や果実は鳥類が採食する。
植物	コナラ	コナラ・クヌギ林の構成樹種。有用材となる他、甲虫類の採食場所等になる。
植物	クヌギ	コナラ・クヌギ林の構成樹種。有用材となる他、甲虫類の採食場所等になる。
植物	エノキ	コナラ・クヌギ林の構成種。葉はゴマダラチョウの幼虫が採食する。
植物	アカマツ	アカマツ林の樹冠構成種。
植物	タチツボスミレ	日当たりのよい林縁や林内に生育する。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	アマチャヅル	山地や、やぶに生育するつる植物。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	キツネノカミソリ(植栽種)	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。コナラ・クヌギ林の構成種。開発や樹林の荒廃等で減少。
植物	ヒトリシズカ(植栽種)	山野の林内や草地に生育する。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	フタリシズカ(植栽種)	山野の林内に生育。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	エビネ(植栽種)	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。山野の落葉樹林内に生育。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	カラタチ	ナミアゲハ、クロアゲハの食草。
植物	サンショウ	ナミアゲハの食草。
鳥類	ウグイス	ササ類が繁茂している場所に生息する。
鳥類	エナガ	樹木の枝や幹の二又になった部分にコケをクモの糸でとめ、袋状の巣を作る。
鳥類	シジュウカラ	樹洞やキツツキ類の開けた穴の中にコケ等を使って巣を作る。
鳥類	ヤマガラ	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。
爬虫類	ニホントカゲ	都区部では絶滅危惧Ⅰ類。落ち葉や下草の影、石の隙間にもひそむ。
爬虫類	ニホンカナヘビ	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。落ち葉や下草の影、石や建築物の隙間にもひそむ。
爬虫類	ニホンヤモリ	夜行性。主に木造家屋、住宅地の周辺に生息。
昆虫類	ナミアゲハ	食草はサンショウ等。
昆虫類	ゴマダラチョウ	食草はエノキ等。
昆虫類	ヤマトシジミ	食草はカタバミ等。
昆虫類	アカタテハ	食草はカラムシ等。
昆虫類	コバネイナゴ	食草はイネ科草本。特にイネにつく。
昆虫類	カブトムシ	幼虫は腐葉土や朽木に、成虫は樹液に集まる。
昆虫類	コクワガタ	幼虫は倒木や朽木に、成虫は樹液に集まる。
クモ類	カタハリウズグモ	あまり陽が当たらない林内や下草を好む。
腹足類	ミスジマイマイ	草地の地面から樹木の湿った場所に生息。

継続性目標指標種：今現在でも普通に見られる種が、環境整備によって影響を受けずに生息数を維持し続けられると考えられる種 (P37・39)

回復性目標指標種：今現在では稀にみられる、もしくはほとんど見られなくなった種が、環境整備によって再び公園に定着してくれることを期待する種 (P38・40)

回復性目標指標種（陸域）

分類	種名	備考
植物	カントウタンポポ	野原や道端に生える在来タンポポ。駒場野公園内の林内に生育。目黒区では開花情報を継続調査している。
植物	タチツボスミレ	日当たりのよい林縁等に生育する。駒場野公園の林内に生育しており、草地でも生育を期待する。
植物	アカマツ(実生)	よく手入れされたアカマツ林では実生更新が期待される。
植物	シラヤマギク	管理され林床が明るいコナラ・クヌギ林でみられる群落の構成種。
植物	ヒヨドリバナ	管理され林床が明るいコナラ・クヌギ林でみられる群落の構成種。
植物	キンラン	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。管理され林床が明るいコナラ・クヌギ林でみられる群落の構成種。
植物	シュンラン	乾燥した落葉樹林内で生育する。
植物	ギンラン	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。明るい林内に生育する。
植物	ウワミズザクラ	日当たりのよい谷間等に生育し、果実は鳥類が採食する。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	ウグイスカグラ	日当たりのよい場所に生育し、果実は鳥類が採食する。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	ゴンズイ	日当たりのよいやや乾燥した林の林縁に生育する。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	ガマズミ	林縁や明るい林内に生育する。コナラ・クヌギ林の構成種。
植物	ススキ	アカマツ二次林の構成種で草原の種。
哺乳類	アズマモグラ	土壌の豊かさの指標となる。土面が分断されていると減ってしまう。
哺乳類	タヌキ	昆虫やカエル類等の動物やドングリ等の植物も食べる。
鳥類	フクロウ	都区部では絶滅危惧ⅠA類。大木の洞に営巣する。樹林の指標となる。
鳥類	オオタカ	都区部では絶滅危惧ⅠA類。平地から山地に生息。小型の哺乳類や鳥類を捕食する。
両生類	ヒキガエル	都区部では準絶滅危惧種。繁殖期以外は水辺に隣接する湿った樹林に生息。
両生類	ニホンアマガエル	都区部では絶滅危惧ⅠB類。繁殖期以外は水辺に隣接する湿った樹林に生息。
昆虫類	ショウリョウバッタ	イネ科の植物を食べる。草地の指標となる。
昆虫類	ハヤシノウマオイ	主に夜行性。雑木林周辺の低木上や草地で見られる。
昆虫類	ヒグラシ	梅雨明けの朝夕に鳴く。大きな森では昼間から鳴く。涼しい樹林の指標となる。
昆虫類	ベニシジミ	食草はギンギンやスイバ。草地の指標となる。
昆虫類	オオミズアオ	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。食草はクヌギ、コナラ、サクラやウメ、ハナミズキ等。雑木林の指標となる。
昆虫類	ミズイロオナガシジミ	食樹木はクヌギ、コナラなど。成虫はクリの花や樹液で吸蜜する。クヌギコナラなどからなる樹林の指標となる。
昆虫類	ウバタマムシ	都区部では絶滅危惧ⅠA類。マツの枯れ木に集まる。マツ林の指標となる。
昆虫類	クワカミキリ	クワ、ケヤキ、ブナ等各種広葉樹に集まる。雑木林の指標となる。
昆虫類	ケブカヒラタカミキリ	夜行性。マツの樹皮の間にいる。幼虫はマツの生木。マツ林の指標となる。
昆虫類	シロコブゾウムシ	クズ、フジ、クワ等マメ科植物。林縁部(マント群落)の指標となる。
クモ類	コガネグモ	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。近年減少。大型で餌となる昆虫も多く必要。樹林～水田の日当たりのよい樹間に大きな網を張る。
キノコ類	オニフスベ	雑木林の指標となる。

目標指標種について（水域）

水辺地の保全や回復に向けた維持管理を実施するにあたり、公園で見られる（または、見られた）動植物について、2通りの目標指標種を選定しました。

継続性目標指標種（水域）

分類	種名	備考
植物	オモダカ	稲作が継続された環境に適応した水田雑草群落の構成種。
植物	コナギ	稲作が継続された環境に適応した水田雑草群落の構成種。
植物	ムシクサ	水田内や川の近く、海岸に近い湿地などに生育する。
植物	アブノメ	都区部では絶滅危惧ⅠB類。低地のため池や湿地に生育。
植物	ケキツネノボタン	水田のあぜや湿地に生育し、耕起前に開花結実を行う。
植物	ノミノフスマ	水田雑草群落の構成種で、耕起前に開花結実を行う。
植物	カワヂシャ	国内では準絶滅危惧種。水田雑草群落の構成種。
植物	ハンゲショウ(植栽種)	都区部では 絶滅危惧ⅠA類。湧水地や池畔、河畔などに生育する。
植物	カキツバタ(植栽種)	都区部では絶滅危惧ⅠB類。アヤメの仲間では最も水湿を好む。
植物	マコモ(植栽種)	都区部では準絶滅危惧種。有機質の多い泥底を好む抽水植物。水生昆虫や小動物が利用する。
植物	セリ	水の流れのある泥上に生育する。
鳥類	エナガ	樹木の枝や幹の二又になった部分にコケをクモの糸でとめ、袋状の巣を作る。
鳥類	シジュウカラ	樹洞やキツツキ類の開けた穴の中にコケなどを使って巣を作る。
鳥類	カルガモ	草地の地面に営巣する。
鳥類	コサギ	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。田んぼや池で採餌する。
爬虫類	アオダイショウ	都区部では準絶滅危惧種。水鳥などのヒナ、卵などを採餌する。
爬虫類	ニホントカゲ	都区部では絶滅危惧Ⅰ類。落ち葉や下草の影、石の隙間にもひそむ。
爬虫類	ニホンカナヘビ	都区部では絶滅危惧Ⅱ類。落ち葉や下草の影、石や建築物の隙間にもひそむ。
爬虫類	ニホンヤモリ	夜行性。主に木造家屋、住宅地の周辺に生息。
昆虫類	シオカラトンボ	平地の田んぼや池などで普通にみられる。
昆虫類	オオシオカラトンボ	平地の田んぼや池などで普通にみられる。
昆虫類	キイトンボ	都区部では絶滅危惧ⅠB類。水草の茂った池や沼に生息。
クモ類	カタハリウズグモ	あまり陽が当たらない林内や下草を好む
魚類	メダカ	都区部では絶滅危惧Ⅰ類。田んぼやため池などの消失、圃場整備などにより著しく減少。

回復性目標指標種(水域)

分類	種名	備考
植物	クログワイ	湖沼、水田の生育種、かつて駒場野公園に生育していた。
植物	ミズハコベ	都区部では絶滅。南多摩では絶滅危惧 IB 類。かつて駒場野公園の水田内に生育していた。
植物	オモダカ	湖沼や水田に生育する種。駒場野公園では水田内に生育。エコトーンの水際に生育することを期待する。
植物	ミクリ	都区部では準絶滅危惧種。河川や池沼の抽水植物。トンボ類の産卵場所や水生昆虫、小魚の隠れ場所となる。
植物	ヒツジグサ	都区部では絶滅危惧 IA 類。貧～中栄養の湖沼等で生育する浮葉植物。トンボ類が産卵したり水生昆虫が利用。
植物	ウキクサ類	ため池や水田に生育する浮葉植物、水鳥の飛来増加に伴い水鳥の脚などに付着し持ち込まれる可能性がある。
植物	トウダイグサ	日当たりのよい畑や道端に生育する。かつて駒場野公園に生育。エコトーン陸地部分での生育を期待する。
植物	ガマ属の抽水植物	湿地等に特有な種で、トンボ類の産卵場所や水生昆虫、小魚の隠れ場所となる。
植物	カンガレイ	湿地等に特有な種で、トンボ類の産卵場所や水生昆虫、小魚の隠れ場所となる。
植物	ヨシ	池沼の水際に発達する湿生草原に特有な種。
植物	ヒルムシロ属の沈水植物	水湿生植物群落の構成種で、水生昆虫や小魚の隠れ場所となる。
哺乳類	アズマモグラ	土壌の豊かさの指標となる。土面が分断されていると減ってしまう。
哺乳類	タヌキ	昆虫やカエル類などの動物やドングリなどの植物も食べる
鳥類	フクロウ	都区部では絶滅危惧 IA 類。大木の洞に営巣する。樹林の指標となる。
鳥類	オオタカ	都区部では絶滅危惧 IA 類。平地から山地に生息。小型の哺乳類や鳥類を捕食し、地上から 10～15m のアカマツに営巣する。
鳥類	カワセミ	都区部では絶滅危惧 II 類。水辺で採餌する。崖に営巣する。
両生類	ヒキガエル	都区部では準絶滅危惧種。繁殖は田んぼのような止水域に依存する。
両生類	ニホンアマガエル	都区部では絶滅危惧 I B 類。繁殖は田んぼのような止水域に依存する。
昆虫類	ゲンゴロウ類	肉食性で生活史のほぼすべてを水域に依存する。
昆虫類	オニヤンマ	都区部では準絶滅危惧種。流れのある水辺に依存。幼生は流水性できれいな水中で暮らし、繁殖も水辺で行う。
昆虫類	アキアカネ	幼生は止水性で、繁殖も水辺で行う
昆虫類	アオイトトンボ	幼生は止水性で、繁殖も水辺で行う。ガマやイグサなどに産卵する。
昆虫類	アジイトトンボ	幼生は止水性で、繁殖も水辺で行う。
昆虫類	ヘイケボタル	住民による活動で回復が試みられている。 幼生は止水性で、蛹は畔など地中を利用する。
クモ類	コガネグモ	都区部では絶滅危惧 II 類。大型で餌となる昆虫も多く必要。樹林～水田の日当たりのよい樹間に大きな網を張る。
魚類	モツゴ	特に数が減っている。ヨシの茎の表面などに産卵する。

参考文献

「目黒区みどりの基本計画」(2016: 目黒区)
「目黒区のみどりーみどりの実態調査報告書一」(2015: 目黒区)
「目黒区生物多様性地域戦略ささえあう生命の輪 野鳥のすめるまちづくり計画」(2014: 目黒区)
「めぐるのいきもの 80 選」(2014: 目黒区)
「みどりの散歩道コースガイド改訂版」(2017: 目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の野鳥」(2015: 目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蝶と蛾」(2016: 目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 土をめぐる生物」(2018: 目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の蜘蛛」(2019: 目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 目黒区の甲虫」(2020: 目黒区)
「目黒区いきもの住民台帳 暫定版リスト」(2009: 目黒区)

野鳥のすめるまちづくり計画・いきもの住民台帳・みどりの実態調査・みどりの基本計画など URL
<http://www.city.meguro.tokyo.jp/kurashi/shizen/ikimono/tayosei.html>

「街の自然 12 か月＝目黒区の動植物ガイド」(1983: 目黒区)
「目黒区産動植物目録＝街の自然 12 か月資料編」(1984: 目黒区)
「目黒区自然環境基礎調査 (土壌生物写真調査)」(2000: 目黒区資料)

「公園の育児書～みんなで公園を育てよう～」(1986: 目黒区)

写真・作成協力

駒場野公園で活動する公園ボランティアの皆さん
駒場野公園自然観察舎

イラスト

水谷 高英
(区民による身近な生物調査環境学習資料)

駒場野公園の育児書 ～里地・里山の風景を未来へ～

2021 (令和3) 年3月31日発行

発行 目黒区
目黒区都市整備部みどり土木政策課みどりの係
東京都目黒区上目黒二丁目19番15号

電話 03 (5722) 9355

制作・編集 株式会社自然教育研究センター

印刷 有限会社ジンキッズ

主要印刷物番号

2-41

こま ば の こう えん い く じ し ょ
駒場野公園の育児書
さ と ち さ と や ま ふ う け い み ら い
～里地・里山の風景を未来へ～

